

◆ビジネススクール教室風景◆

在学生の声
2012年入学 田淵 剛さん

①YBSを選んだ理由は？

同じ部署の後輩が先にYBSにお世話になり、色々と刺激的な話を聞くにつれて興味が膨らみ、さらに24年度の演習テーマが自らの問題意識と重なったことが決定的な動機となりました。

キャリア的にも最後のチャンスだと思ってトライしました。

②勉強に関して

やはり仕事と家庭を抱えながらの就学、というのが一番の不安でしたが、いざやり始めると、何とかなるものです。レポート提出など大変な部分もありますが、達成感、充実感は申し分ありません。

③クラスの雰囲気はどうですか？

小人数クラスの良さが期待通りで、とても充実しています。皆さん志が高い方ばかりなので、意見交換も活発です。先生方も気軽に相談に乗って頂けるので助かります。

④正直言って、入学してよかったですか？

全く後悔はありません。知識の習得だけでなく、また



YBSでなければ経験できないであろうことも経験できました。他業界の方々との人脈が作れたことも重要な成果の一つです

⑤役に立つと思う？

現業においても、業務への視点が変わったと思います。なぜそのような結果になるのか論理的に考えるくせがつかえました。

⑥仲間たちは？

年齢、職業もバラバラですが、高い志を持った方ばかりなので、とても頼りになる仲間です。夏休みに自主ゼミを行ったり、学外で交流を持ったり活発に活動しています。卒業後も交流を継続できればと思っています。

⑦息抜きの仕方は？

共働き、子供ありの身としては、週1日の休日も何かと忙しくなってしまいます。今は少ないながらも家族といる時間が息抜きになっているのと、やっぱり「飲み」ですかね。

在学生の声
2012年入学 細川 徳之さん

①YBSを選んだ理由は？

YBSは徹底的な少人数教育で先生と学生のコミュニケーションが活発なこと、そして平日は横浜ランドマークタワーで講義を受講できる通学の至便性がとても魅力的でした。

②勉強に関して

皆、問題意識を持って入学していますのでゼミでは活発な議論が行われます。また講義内容も充実しており、様々な専門知識を習得することが出来ます。

③クラスの雰囲気はどうですか？

先生と学生の距離がとても近いことに驚きました。また講義は少人数クラスのため、とてもリラックスした雰囲気の中で、お互いに切磋琢磨しています。



④正直言って、入学してよかったですか？

もちろんです。仕事と勉強を両立するのは大変ですが、それ以上に得られるものが沢山あります。毎回、先生や仲間から多くの刺激を受けて、自身の成長に大きく寄与しています。

⑤役に立つと思いますか？

もちろんです。YBSに入学したことで、他では得られない貴重な経験や知識を得ることができました。その結果、実務経験と異なる専門的視点から課題をアプローチすることが出来るようになりました。

⑥仲間たちは？

幅広い年齢層で様々な実務経験を持つ仲間が集まっています。また学年を超えた繋がりもあり、YBSを通じてとても大切な仲間と出会うことが出来ました。

Yokohama Business School

横浜ビジネススクール〈社会人大学院〉

2014年度 入試説明会資料

◆入試日程

第1次選抜	学力検査（小論文）	2013年11月16日（土）
第2次選抜	学力検査（口述試験）	2013年11月30日（土）



専門知識の深化と統合化

・演習（ゼミ）プログラムを重視

充実した講師陣

・横浜国立大学経営学部の新進気鋭の教授・准教授が総力を結集

好アクセスと好環境

・教室はみなとみらいサテライトキャンパス（ランドマークタワー 18F）
・平日は夜間授業（18：50～21：00）及び土曜日の授業（9：50～18：00）
・徹底した少人数教育

高いクォリティと経済性

・MBA《修士（経営学）》への道、DBAへの進学も可能
・国立大学法人ならではの経済性（入学金：282,000円 授業料：535,800円（年間）2013年度実績）
・厚生労働省 教育訓練給付金対象

お問い合わせや学生募集要項は下記宛てまでご連絡またはご請求ください。

横浜国立大学国際社会科学府（社会科学系経営学務係）

〒240-8501 横浜市保土ケ谷区常盤台79-4 TEL:045(339)3653 MAIL:int.keiei@ynu.ac.jp

横浜国立大学大学院国際社会科学府 経営学専攻（博士課程前期）

「グローバル化と日本企業」

ヘラー・ダニエル & 柴田 裕通

日本企業の先駆者たちによるグローバルな活躍を通じて、近代企業経営は西洋だけに限った現象ではないということが明らかになった。しかしその後は、冷戦終結、デジタル化、バブル経済とその崩壊等の影響を受け、世界のアジアへの注目は日本から中国や韓国へと移った。日本にとっては厳しい時代となったが、この20年余りの間に日本企業は様々な工夫を見せた。その結果、世界のGDPにおける日本のウエイトは依然として高く、特に3.11以降は、日本企業のものづくりの強さが国内外で再認識されている。2010年代においては経済活動の更なるグローバル化が進む中で、本演習では、日本企業の戦略形成、組織変革、人事制度、ものづくり経営に焦点を当て、様々な業種・規模の企業の成功例や問題点を調査し、そのエッセンスを洗い出し、有意義な提言に繋がる研究を行っていきます。



横浜ビジネススクールの理念

経営学をはじめ、金融、会計など、ビジネスのなかで専門的知識を持つ人材へのニーズが高まり、それに対応すべく専門家の育成を目指して、すでに多くのビジネススクールが開設されています。

それとともに、異なる専門分野の知識をいかに統合化し、企業全体の方向性に結びつけるか、そのための知識に対するニーズも併行して高まってきています。そこで、専門的な知識を統合し、戦略的視野に立って企業活動の全体最適化を企画できる人材を養成することが日本企業にとって重要と考えます。

そして、これらのニーズに応えつつ、「実践性」、「先進性」、「開放性」、「国際性」という建学の理念を社会人実務家教育に実践していく場こそが、横浜ビジネススクールなのです。

横浜ビジネススクールの特徴

- ・ 徹底的な少人数教育（各演習テーマの定員は6名程度）で、演習を重視した研究指導が行われます。
- ・ 専門領域の異なる2名の教員がタッグを組んで演習の指導にあたります。
- ・ 毎年2つの演習テーマを設けて、多様なバックグラウンドを持った社会人に広い視野で教育を行います。
- ・ 演習は2名の担当教員の研究領域を融合して、時代にマッチした旬のテーマを設定しています。
- ・ 受講者と教員がハイタッチにコミュニケーションし、学びあう、知のインターフェイスが体感をできます。
- ・ 平日の夜間授業は通学に便利な横浜ランドマークタワー内のサテライトキャンパスで行います。
- ・ 国立大学法人ならではの入学金・授業料の水準は、経済的に大きな魅力となっています。



OBやOGが多数参加するプロジェクト報告会(最終試験に相当するもの)の様

「企業価値評価と会計・ファイナンス」

原 俊雄 & 伊藤 有希

企業の目標は何か？

これまでは利益・売上高・ROEといった財務諸表上の数値や財務指標のみが重要とされてきました。これらの数値は現在でも重要な指標ですが、過去の企業活動の記録をベースに作成されたデータです。

現代のグローバル環境における企業経営においては、企業が将来生み出すキャッシュフローをベースに「企業価値」が計算され、これを向上させることが求められています。

企業価値を向上していくためには、業種を問わず、全社的に会計やファイナンスの知識を共有し、活動していくことが必要となります。そのため、会計とファイナンスの知識はすべてのビジネスパーソンにとって必須のスキルとなっています。

本演習では、会計とファイナンスについて基礎から学びます。これらの知識にもとづいて、修了までに、定性的、定量的な企業価値評価が実践できるようになることを目指します。



講義科目・講師陣 (2013年度開講科目)

科目名	担当教員	科目名	担当教員
リサーチ・メソッド	山倉・山岡・高橋・真鍋・白井・佐藤	市場分析	本橋 永至
マネジリアル・エコノミクス	安部 浩次	ビジネス・シミュレーション	白井 宏明
数学・確率・統計	田名部元成・鈴木 香織	企業年金	山口 修
エコノメトリクス	清田 耕造	国際会計	五十嵐則夫
戦略マネジメント	山倉 健嗣	経営史	青木 洋
経営組織	稲山 健司	コーポレート・ガバナンス	三戸 浩
技術マネジメント	真鍋 誠司	特殊講義 (M&A)	渡辺 伸行・平林 康洋 他
マーケティング・マネジメント	鶴見 裕之	ワークショップ演習	高橋 賢・真鍋 誠司
ヒューマンリソース・マネジメント	柴田 裕通	ワークショップ演習	白井 宏明・佐藤 亮
グローバル・マネジメント	曹 斗燮	プロジェクト演習Ⅰ	高橋 賢・真鍋 誠司
管理会計	高橋 賢	プロジェクト演習Ⅰ	白井 宏明・佐藤 亮
財務会計	大雄 智	プロジェクト演習Ⅱ	山倉 健嗣・山岡 徹
サステナビリティ・マネジメント	八木 裕之	プロジェクト演習Ⅱ	森田 洋・大雄 智
アカウンティング	上村 浩	プロジェクト演習Ⅲ	山倉 健嗣・山岡 徹
企業財務	北村 智紀	プロジェクト演習Ⅲ	森田 洋・大雄 智
証券市場	柴崎 健		